

(様式第9号)

情報公開用文書

2025年2月～2026年3月に本院の泌尿器科 で、経尿道的腎尿管碎石術および経皮的腎尿管碎石術を施行される患者さんへ

「腎尿管結石の手術に対する医療従事者が受ける職業被曝線量のリアルタイムモニタリング」について

1, 研究（調査）の目的と概略

国際放射線防護委員会（ICRP）の2011年の勧告を受け、日本でも2021年より放射線業務従事者が受ける水晶体の被曝等価線量は、5年間で100mSv かつ年間50mSv 以内と定められています。そのため、医療従事者における職業被曝は泌尿器科分野でも決して無視できない問題となっています。そのため、泌尿器科の手技で職業被曝が多いと予想される腎尿管結石の手術（経尿道的腎尿管碎石術および経皮的腎尿管碎石術）において、リアルタイム被曝測定システム（RaySafe i3:RaySafe社）を用いて、一つの手術における術者の水晶体のリアルタイムでの被曝線量測定と線量増加にかかわる手術手技や行動について把握することを研究の目的とします。結果的にこの把握が今後の職業被曝低減につながると考えています。

2, 研究（調査）の方法

腎尿管結石の診断のもと、「経尿道的および経皮的腎尿管碎石術」の手術の際に、術者などの医療従事者が受ける職業被曝線量のリアルタイムモニタリングを行います。医療従事者が受けた職業被曝線量だけでなく、その手術を施行された患者様に関して、既存資料をもとに患者背景、検査データ、手術データなどをまとめます。電子カルテから得られた患者背景や検査データや手術所見を基に、統計解析を行います。氏名や住所は収集いたしません。

3, 研究（調査）の参加施設

徳島県立中央病院を参加施設としています。

4, 調査期間

研究全体の実施期間は 2025年2月～2026年3月31日までです。

5, 調査の対象となる患者様

2025年2月～2026年3月31日において徳島県立中央病院にて経皮的および経尿道的尿管碎石術を施行する患者さんが対象となります。

6, この研究への協力は任意です

本研究は、患者様の診療記録から得られた情報のみを使用する「観察研究」と呼ばれるもので、患者様に新たな診療や検査を強いるものではありません。調査結果は、個人が特定できないように匿名化して管理し、個人情報を守ります。データのご使用をお断りになる場合は、直ちに情報の利用を停止いたしますので、ご遠慮なくお申し出ください。何も診療に不利益は生じません。

7, お問い合わせ先

【研究機関】 徳島県立中央病院 泌尿器科

【研究責任者】 徳島県立中央病院 泌尿器科 副部長 塩崎啓登

【研究代表者】 泌尿器科 部長 中西良一 電話：088-631-7151

本研究への参加に同意しない場合は、上記連絡先までご連絡下さい。